

第2章 佐呂間町の概況

第1節 自然条件

第1 位置及び面積

佐呂間町は、北海道の東北部、オホーツク管内のほぼ中央、東経143度46分、北緯44度1分に位置し、東から南に北見市、西は遠軽町と湧別町に隣接し、北はサロマ湖に面しており総面積は404.99平方キロメートルを有している。

第2 地 勢

佐呂間町の地勢は、天北山系の山々を背景に、南部の仁頃山（829メートル）を最高として、北方に向かって徐々にその高度を減じていく傾向にあり、北西部では標高200メートルから400メートルの起伏に富んだ地形をもち、東西に狭長地形で北見市留辺蘂町山間部より発した佐呂間別川が浜佐呂間でサロマ湖に注いでいる。

第3 気 象

(1) 気候

佐呂間町は、サロマ湖に面する部分は一般に海岸気象を現し、一方、遠軽に通じる辺境地帯は内陸気候の影響を多分に受けている。

なお、佐呂間町の過去における気象概要は、資料編（3-1 気象概要）のとおりである。

(2) 気温

年間平均気温は約5度で、年間の気温の差が激しく、6月から7月上旬にかけてオホーツク寒気団が停滞し冷涼となるが、7月から8月には30度を超える真夏日を記録する。

また、12月から2月までは真冬日が続き、最低気温は放射冷却現象のためマイナス30度に近づく日もある。

初霜は、一般には9月下旬であるが、強い寒気や放射冷却等の状況ではこれより早く発現する年もある。また、終霜は5月中旬である。

(3) 降水

年平均降水量は、約800ミリ程度であり、全国的に見ても降水量の少ない地域である。夏季は低気圧等の影響や雷雲の発達により、短時間に強い雨が降ることがある。

(4) 積雪

最深積雪は平均90センチメートル程度で、発達した低気圧の影響で暴風雪になり、大雪や吹溜りで交通障害等が発生することがある。

(5) 風

年間を通し風は弱く、最大風速毎秒10メートル以上となる日数は年9日程度である。風向は季節による変化はあまりないが、冬季は北から北西の風が多くなる。

第2節 災害の状況

第1 災害の概況

本町に被害があった災害で主なものは、資料編（3-2 災害履歴）のとおりである。